

令和 5 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践するとともに、地域社会に対しても「多様性社会の実現」を推進できる学校 ＊その実現のために、《チーム光陽！つたえる・分かち合う・つながる》を合言葉に、以下の4点について連動させて取り組み、「好循環な学校」を作る。 1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現。 ～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～ 2.【実践】質の高い授業実践の実現。 ～主体的な学びを大切にし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校～ 3.【組織】質の高い教員集団の実現。 ～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～ 4.【発信】多様性社会の推進と実現。 ～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、すべての人が自分らしく生きていく社会の実現に向けて使命が発揮できる学校～

2 中期的目標

●「学校経営推進費」を受けた年度(R3)【事業名】「光陽 GoGo プロジェクト～未来の扉を自分で開こう！～」 ＊ 導入機器→「スパイダー」「ベビーロコ」「スヌーズレン関連機器」「SDGs 関連取組の陶芸・七宝焼道具」等。 1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現(安全安心力の向上) ～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～ (1)「学校生活のあらゆる場面で児童生徒・教職員の人権が尊重される学校」を実践・実現するため、「人権尊重の教育」を推進する。(R3～R5 の 3 年間 取組み重点) (2)すべての児童生徒の「心身の健康」を守り、すべての児童生徒・保護者・教職員にとって「安全安心な校内体制と医療的ケア実施体制」を構築する。 ・すべての児童生徒の「心身の健康」を守るために組織として「報告・連絡・相談・連携」等の体制を維持する。(R5～R7 の 3 年間 基礎基本の再構築) ・人工呼吸器の管理等、高度な医療的ケアも含めたすべての医療的ケアが、安全安心に行えるための環境整備を行い、校内体制を構築していく。 (3)学校における「危機管理体制」を強化し、事故・事案の未然防止に努める。また、万が一発生した時には、児童生徒・保護者・教職員へのリスクを最低限にとどめる。 ・危機管理関係の手引きを社会の変化に対応した形で「学校における危機管理の手引き」や「業務継続計画(BCP)」等を整理・集約し、実効性を追求して改善する。 ・「大災害発生時」においても児童生徒・教職員の「命を守る」対応ができるように、「学校防災アドバイザー」等を活用し、組織として準備する。 2.【実践】質の高い授業実践の実現(授業実践力の向上) ～主体的な学びを大切にし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～ (1)学習指導要領を踏まえた学校全体の「教育課程」について確認し、俯瞰的視点を持って「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を達成できるように実践する。 ・「光陽グランドデザイン」の完成。(R3「めざす児童生徒像」「めざす教職員像」等の確定→R4「各学部教育目標」のつながり等の確定→R5「光陽グランドデザイン」確定) ・「第二次大阪府教育振興計画」「府立学校に対する指示事項」「学校経営計画」「光陽グランドデザイン」「シラバス」「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」をつなげて実践する。「個別的教育支援計画」(R5 から新様式)を活用し、「全体から部分」「部分から全体」を常に考えて実践し、個のニーズを実現する。 (2)主体的な学びを大切にした授業実践(観点別評価含む)を実現するため「研究授業」や「授業振り返り研修会」「教職員間の授業参観週間・交流会」を充実する。 ・定期的に学年・学部で話し合い、授業力向上及び授業改善のための大切な観点を共有し、新たな気づきや学びを「明日からの授業」に活用する。 ・各教職員の「経験年数に応じた学び」や「教科等に応じた学び」を充実するために、学部を超えて相互に授業観察ができるシステムを構築・定着する。 (3)自立活動における専門性の向上を図るための取組みを行う。(光陽 GoGo プロジェクトの取組み含む) ・GIGA スクール構想に伴う 1 人 1 台のタブレットや VR ゴーグル・アバターロボット・視線入力装置等の ICT 機器を積極的に活用し、児童生徒の可能性を広げる。 ・スパイダー・移動式スパイダー・移動支援機器・スヌーズレン等を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。また、活用の好事例を蓄積する。 ※上記(3)の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「自立活動を中心とした実践」における学校教育自己診断関連質問項目を 1 年目(R3)・2 年目(R4)・3 年目(R5)ごとに新設する。<u>各年度の新設項目</u>の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和 3 年度 65%以上(達成済)、令和 4 年度 70%以上(達成済)、令和 5 年度 75%以上とする。〈R3 教職員 90% 保護者 74% ・ R4 教職員 96% 保護者 81%〉 3.【組織】質の高い教員集団の実現(組織力の向上) ～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～ (1)全教職員のスキルアップ研修と次世代育成継承システム(OJT)を充実し、学校組織として支援教育の専門性を高める。 ・教職員の研修形態を「全校研修」と経験年数や課題別等の「ニーズ研修」の両輪で展開するため、「光陽研修ライブラリ」を充実し、組織として専門性向上を実現する。 ・学年内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち、「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。 (2)組織としての「引継システム」を促進する。 ・定期的な「整理整頓」の実行をおこない、校務のスリム化を促進する。 ・授業の「年間計画」「学習指導案」「教材教具」を整理して「光陽教材ライブラリ」を充実し、効率的に授業準備ができるよう活用する。 (3)教職員が「教職員としての根幹の業務」に専念できるように「教職員の働き方改革」を推進する。(校務の効率化・労働衛生安全体制の充実) ・教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。 ・児童生徒・教職員にとって「安心安全な移乗支援」が実現するように、リフト等の導入を行い、多職種チームで検証を行いながら、組織としてリフト活用を推進する。 4.【発信】多様性社会の推進と実現(発信力の向上) ～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～ (1)「学校間交流」「居住地校交流」等について進化・深化させ、SDGsの視点も取り入れながら、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。 ・「学校間交流」「居住地校交流」について、双方の学びを社会に発信することで、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。 (2)「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・地域小中学校・関係機関との協働を推進し、併せて「支援教育のセンター的機能」を発揮する。 ・地域支援については、支援教育コーディネーターに加えて校内教職員の専門性を活用し、学校全体で「支援教育のセンター的機能」を発揮する。 ・光陽支援学校の実践を「光陽 GoGo フェスティバル」等で、保護者・地域幼稚園小中学校・地域住民・福祉や医療関係者等へ発信し、連携を充実する。 (3)児童生徒・教職員が光陽支援学校の取組み・実践・自らの学びを積極的に発信し、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。 ・教職員は、自分たちの実践について「わかりやすく伝える力」を強化し、「研修会」「実践協議会」等の機会を積極的に活用し、校内外へ発信する。 ・児童生徒が「ポッチャ大会」「ロボットプログラミング選手権」「絵画コンクール」「スピーチコンテスト」等の機会を活用し、積極的に挑戦できるよう組織として支援する。 ※上記(1)(2)の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「SDGs拠点校としての実践・発信」における学校教育自己診断関連質問項目を 1 年目(R3)・2 年目(R4)・3 年目(R5)ごとに新設する。<u>各年度の新設項目</u>の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和 3 年度 65%以上(達成済)、令和 4 年度 70%以上(達成済)、令和 5 年度 75%以上とする。〈R3 教職員 94% 保護者 89%・ R4 教職員 98% 保護者 84%〉
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 5 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4 年度値]	自己評価
1 安全安心力の向上 【安全安心な校内体制構築の実現】	(1) 人権尊重の教育推進	(1) ・教職員の人権研修として、「ファシリテーションスキル」「アサーティブコミュニケーション」「アンガーマネジメント」等、健全な同僚性構築に必要な様々なコミュニケーションスキルを3年計画で学ぶ。(3年目の取り組み) ・児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。	(1) ・全校研修1回で外部講師招聘。 ・毎月の学年会等を活用して、「ことば・行動」について振り返り、課題ケースは即時対応。 ・学期ごとに好事例等をまとめて実践に活かす。	
	(2) 心身の健康を守る教育の推進	(2) ・児童生徒のいつもと違う姿は、報告・連絡・相談の徹底。インシデント・アクシデント生起時は、「正確な事実確認」と「原因分析」「具体的な改善策」をチームで迅速に対応。 ・安全安心な医療的ケア実施体制構築に向けて、教員と看護師の協働実践をまとめ、校内研修会で事例発表する。(助言者として外部講師を招聘する。) ・高度な医療的ケアを安全に実施するために定期的な緊急対応シミュレーションの実施。(バリエーションを増やす)	(2) ・インシデント・アクシデント生起後、必要に応じて症例検討。確認事項は、朝礼等で全体共有。 ・教員と看護師の協働実践1事例を教職員研修として実施。外部講師招聘。 ・新しい想定 of 緊急対応シミュレーションも含めて年6回。[3回]	
	(3) 危機管理体制の強化	(3) ・「危機管理体制」を強化し、事故・事案の未然防止に努める。また、万が一発生した時には、児童生徒・保護者・教職員へのリスクを最低限にとどめるために、模擬訓練を実施。また、「業務継続計画(BCP)」をアップデートする。 ・「大災害発生時」においても児童生徒・教職員の「命を守る」対応ができるように、「学校防災アドバイザー」等を活用し、組織として準備する。	(3) ・「大災害発生」を想定した模擬訓練(関係機関含)実施1回。 ・「学校防災アドバイザー」からの助言年3回。 ・ポータブル電源ソーラーパネルの購入。 ・地域関係者との連携会議年5回。	
2 授業実践力の向上 【質の高い授業実践の実現】	(1) 個のニーズの実現	(1) ・R3年度作成の「めざす児童生徒像」「めざす教職員像」、R4年度作成の「各学部育てたい力」を俯瞰的にまとめて「光陽グランドデザイン」を完成させる。 ・「個別的教育支援計画」(R5から新様式)を活用し、「全体から部分」「部分から全体」を常に考えて実践し、個のニーズを実現する。	(1) ・「光陽グランドデザイン」の完成と活用。 ・「個別的教育支援計画」新様式運用開始。1学期末に調整。	
	(2) 質の高い授業実践	(2) ・「授業振り返り研修会」「教職員の授業参観週間・交流会」を実施し、学びを「明日からの授業」に活用する。 ・授業「光陽いいとこ集め」を蓄積する。 ・10年経験者研修等を活用した「公開研究授業」を実施し、ミドルリーダーとしての授業改善を進める。 ・質の高い授業作りのため、全校研修会で学び、授業改善につなげる。 ・1人1台端末の導入を受けて、「アクションプラン」を見直し、ICTを効果的に活用した授業実践を累積する。	(2) ・「授業振り返り研修会」1回と「授業参観週間等」1回の実施。 ・「光陽いいとこ集め」を継続し、首席から各学部会にて共有。 ・「公開研究授業」3回以上実施 ・外部講師招聘による「全校研修会」1回実施。 ・「ICT実践報告会」(4事例)	
	(3) 自立活動の充実	(3) ・「光陽 GoGo プロジェクト」自立活動の実践で、3年目の取り組みを進める。移動式スパイダーや移動支援機器・スヌーズレン・アバターロボット等の機器を積極的に活用し、児童生徒が自ら外界へ関わる力を伸ばし、社会へ参画する機会を増やす。(メタバースの教育的効果も活用。)	(3) ・「光陽 GoGo プロジェクト」自立活動の実践で3年目のまとめ。 ・学校教育自己診断の関連項目教職員・保護者とも肯定的評価75%以上。	
3 組織力の向上 【質の高い教職員集団の実現】	(1) 教職員の専門性向上	(1) ・教職員の研修形態を「全校研修」と経験年数や課題別等の「ニーズ研修」の両輪で展開するため、「光陽研修ライブラリ」システムを構築する。 ・学年・学部内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。(学年会や学部研修会の充実と活用)	(1) ・「光陽研修ライブラリ」を立ち上げ、現存する研修データをカテゴリ別に整理。 ・今後、専門性向上のために蓄積していきたい研修内容のニーズを把握し、計画を作成。	
	(2) 引継システムの推進	(2) ・定期的な「整理整頓」を行い、校務のスリム化を促進する。5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)+S(支援)の実行。 ・授業の「年間計画」「学習指導案」「教材教具」を整理して「光陽教材ライブラリ」を充実し、効率的に授業準備ができるよう活用する。	(2) ・産業医による校内の「5S+S」の状況評価。(年3回実施) ・現存する「視覚支援教材」をカテゴリ別に整理し、「光陽教材ライブラリ」として活用する。	
	(3) 教職員働き方改革推進	(3) ・教職員が心身ともに健康な状態(Well-being)で児童生徒に向き合い指導・支援するために次の3点を意識して「働きやすい職場環境作り」を促進する。 ①「仕事の時間を区切る」(毎週水曜日全教職員定時退勤) ②「仕事のスリム化を行う」(ICTを活用した校務の効率化) ③「仕事の仕方を変える」(発想の転換・業務連携) ・「児童生徒・教職員にとって安心安全な移乗支援」が実現するようにリフト等の導入を行い、多職種チームで検証を行いながら、組織としてリフト活用を推進する。	(3) ・毎週水曜日全教職員定時退勤の実行。 ・フォーム作成ツールを活用した欠席等連絡の実施。 ・保護者配付文書の一部デジタル化。 ・リフト活用の成果を「児童生徒」と「教職員」の両面から整理をし、安全衛生委員会で集約。	
4 発信力の向上 【多様性社会の推進と実現】	(1) 交流および共同学習の充実	(1) ・「学校間交流」「居住地校交流」について、実践を充実。「出前授業」を行い、交流後の「相互の学びや気づき」を校内外に発信する。 ・「SDGsの視点や取組み」を交流校間で発表しあう。 ・「届けよう服のチカラプロジェクト」3年目の取り組み実施。交流校や地域とも協働して取り組む。	(1) ・「対面交流」「オンライン交流」を併用して、学びを深める。 ・SDGsプレーヤーとして交流校と発表の機会を作る。「届けよう服のチカラプロジェクト」協働校等、3校。	
	(2) 地域に開かれた学校作り	(2) ・「授業実践・教職員研修」について積極的に地域へ公開(オンデマンド研修等)するとともに、コーディネーターによる地域支援も含めたセンター的機能を発揮する。 ・「光陽 GoGo プロジェクト」の取り組みや本校の実践を保護者・地域小中学校等・福祉事業所関係者・医療関係者等へ発信し、センター的機能を発揮する。	(2) ・「夏季公開研修」を3本実施。 ・「光陽 GoGo フェスティバル」の開催(2日間)学校教育自己診断の関連項目教職員・保護者とも肯定的評価75%以上。	
	(3) 実践の積極的発信	(3) ・教職員は、自分たちの実践について「わかりやすく伝える力」を強化し、「研修会」「実践協議会」等の機会を積極的に活用し、校内外へ発信する。 ・児童生徒が「ポツチャ大会」「ロボットプログラミング選手権」「絵画コンクール」「スピーチコンテスト」等の機会を活用し、積極的に挑戦できるよう組織として支援する。	(3) ・研究会等校内外で実践発信。学校(個人・グループ)から3実践は、校外へ発表。 ・従来の大会参加に加えて、新しく「未来を見通すコンテスト・ブレゼンカップ」への参加。	